

さとし こうざき 聡 夢からはじまる

http://www.kouzakisatoshi.com

県政報告 自由民主党福岡県議団

令和8年6月号



昭和37年9月20日生
平成23年4月福岡県議会議員初当選
平成27年4月二期目
平成31年4月三期目
令和5年4月四期目
添田町立添田小学校・添田中学校卒
福岡県立田川高等学校卒
日本大学商学部会計学科卒
麻生情報システム転籍
株式会社麻生情報システム代表取締役
社長
福岡県農林水産副委員長、福岡県総務
企画地域振興委員長

自由民主党福岡県議団
高工労働常任委員会委員
国際化・多文化共生社会調査特別委員会副委員長

神崎 聡

令和8年7月12日、添田町長選挙・添田町議会議員選挙、そして田川市長選挙・市議会議員補欠選挙が執行されます。田川地域にとって、大きな節目となる夏が近づいています。

人口減少、少子高齢化、地域経済の縮小、物価高騰、インフラ老朽化：：地方自治体を取り巻く環境は年々厳しさを増し、従来の延長線上の行政運営だけでは立ち行かない時代に入りました。

特に、添田町のような中山間地域は、「現状維持」という考え方そのものが衰退につながりかねません。これからの地方自治体には、「守り」だけではなく、「攻め」の地域経営が必要です。

- ・地域資源をどう活かすのか
- ・若者が戻れる地域をどうつくるのか
- ・親光や産業をどう育てるのか
- ・国や県との連携をどう進めるのか
- ・災害や財政危機にどう備えるのか
- ・首長には、単なる調整役ではなく、「地域をマネジメントする力」が求められる時代です。

私はこれまで民間企業経営に携わり、その後、福岡県議会議員として4期にわたり県政に携わってまいりました。

その中で強く感じるのは、「自治体の将来は、首長の力量によって大きく変わる」という現実です。

- ・国や県とのネットワーク
- ・政策を実現する交渉力
- ・財政感覚
- ・老機管理能力
- ・人や組織を動かす力
- ・自ら決断し責任を負う覚悟

これらは、人口減少時代の地方自治体において不可欠な要素です。地方自治体は、もはや「行政を回す」だけでは成り立ちません。

「どう地域を残すか」「どう地域を発展させるか」という経営感覚が必要を時代です。

私は、これからも福岡県議会議員として、添田町そして田川地域発展のため全力を尽くしてまいります。

だからこそ今回の選挙は、単なる人物選びではなく、「誰が地域の未来を託せる存在なのか」が問われる極めて重要な選択だと考えています。

令和8年7月12日は、田川地域の未来を左右する大切な一日になります。住民の皆さんには、ぜひ目先の話題や入念きだけでなく、「誰が本心に地域をマネジメントできるのか」という視点で、選挙を見つめていただきたいと思います。

福岡県議会では6月8日から25日までの日程で6月定例会が開会されます。今回の定例会においても、人口減少対策、防災・減災対策、地域公共交通、農業振興、親光政策、物価高騰対策など、地方が直面する課題について幅広い議論が行われる予定です。

私は県議会議員として4期目を務めておりますが、近年特に感じるのは、「地方の課題は待ったなしで進行している」という現実です。

人口減少は毎年確実に進み、地域経済も厳しさを増しています。さらに、道路・橋梁・上下水道など社会インフラの老朽化、激甚化する自然災害への備え、医療・福祉人材不足など、地方自治体が抱える課題は年々複雑化しています。

こうした時代だからこそ、県と市町村がしっかりと連携し、「現場感覚」を持った政策を進めていかなければなりません。

私はこれからも、県議会の場を通じて添田町そして田川地域の課題や現状をしっかりと県政へ届けるとともに、「地域をどう守り、どう発展させるのか」という視点を大切にしながら、全力で取り組んでまいります。

県政の立場からも、地域の未来をしっかりと見据えながら活動を続けてまいります。



ブログ報告



動画報告



フェイスブック



フェイスブックページ



ツイッター



令和8年度 飯塚農林事務所管内事業計画書 (添田町)

担当課	番号	事業名	市町村名 (地区名)	事業主体	事業内容
農山村振興課	-	地籍調査事業	添田町	添田町	地籍調査 大字野田、英彦山の一部
農山村振興課	-	鳥獣被害防止総合支援事業	添田町	添田町有害鳥獣対策協議会	ワイ-メッシュ柵(シカH1.8m) 662m
農村整備第一課	①	経営体育成基盤整備事業	添田町 (新城岩瀬)	福岡県	ほ場整備工事一式 (事業採択申請)
林業振興課	-	森林環境税事業 (荒廃森林整備)	添田町	添田町	特定調査:50.00ha、強度間伐:90.00ha、 広葉樹植栽:8.01ha、作業路:1,800m、下刈り: 36.04ha
林業振興課	-	森林環境課と税 (森林整備)	添田町	添田町	木材利用等 ※県予算額() 書きは町への交付見込み額
林業振興課	①	保安林総合改良事業 (植栽工)	添田町 (津野)	福岡県	植栽工:1.06ha
林業振興課	①	保安林整備事業 (保育)	添田町 (津野)	福岡県	下刈り:1.63ha
林業振興課	②	保安林整備事業 (保育)	添田町 (落合外)	福岡県	下刈り:1.09ha、枝落とし:1.68ha
林業振興課	③	流域保全総合治山事業 (森林整備)	添田町 (上津野②)	福岡県	本数調整伐等:14.23ha
林業振興課	④	県営林請負事業 (保育)	添田町 (中元寺)	福岡県	保育間伐:4.00ha
森林土木課	①	流域保全総合治山事業 (R7補正)	添田町 (上津野②)	福岡県	谷止工 1基
森林土木課	②	流域保全総合治山事業	添田町 (上津野②)	福岡県	谷止工 1基
森林土木課	③	林地荒廃防止事業	添田町 (柳原山/内)	福岡県	谷止工 1基
森林土木課	④	林地荒廃防止事業	添田町 (瓜ヶ野山)	福岡県	山腹工
森林土木課	⑤	林地荒廃防止事業	添田町 (小畑山)	福岡県	谷止工 1基 (調査設計含む)
森林土木課	⑥	林業生産基盤整備道整備事業	添田町 (豊前坊線)	福岡県	豊前坊線3-1工区 林道開設 100m
森林土木課	⑦	林業生産基盤整備道整備事業	添田町 (豊前坊線)	福岡県	豊前坊線3-2工区 林道開設 120m
森林土木課	⑧	地域活性化事業	添田町 (豊前坊線)	福岡県	豊前坊線3-3工区 林道開設 398m
森林土木課	⑨	地域活性化事業	添田町 (豊前坊線)	福岡県	豊前坊線3-3工区 猛禽類モニタリング業務委託
森林土木課	⑩	農山漁村地域整備交付金	添田町 (一別線)	添田町	林道改良 (林道橋梁補修 1橋)
森林土木課	⑪	農山漁村地域整備交付金	添田町 (大敷~中河内 線)	添田町	林道改良 (林道橋梁補修 1橋)
森林土木課	⑫	県単独林道事業	添田町 (岩石線)	添田町	林道改良 (交通安全施設改良)

5月8日、飯塚農林事務所長より「令和8年度事業計画」について説明を受け、質疑応答を行いました。地元・田川での所用もあり、今日は自宅にてレクチャーを受ける形となりました。農業・林業・治山・農村整備など、地域の暮らしや産業を支える事業について、現場の課題や今後の方向性を確認。特に中山間地域を抱える田川郡にとっては、農林行政は地域維持そのものに直結する重要なテーマです。昨年の決算特別委員会では「本県の林道整備について」質問を行いました。その方向性も事業計画の中に反映されていると感じています。



机上の計画だけで終わらせず、地域の実情に合った事業執行となるよう、現場の声をしっかり届けながら取り組んでまいります。

令和8年度 飯塚農林事務所管内事業計画 (田川郡内計)

(単位:百万円)

市町村名	県予算額	(%)
添田町	762.7	43.4%
香春町	150.6	8.6%
糸田町	32.6	1.9%
川崎町	84.5	4.8%
大任町	32.5	1.8%
赤村	352.1	20.0%
福智町	343.6	19.5%
合計	1758.6	100.0%

「教育の現場」から見てきた、県立高校の危機と可能性

田川地区内の県立学校である、田川高校、東鷹高校、西田川高校、田川科学技術高校、そして川崎特別支援学校の校長先生方に自宅までお越しいただき、意見交換を行いました。

校長先生方が5人も集りますと、まるで「職員室に呼ばれた生徒」のような気分になり、少々緊張もいたしましたが、実際には終始和やかな雰囲気の中で、教育現場の現状や課題について率直なお話を伺うことができ、大変有意義な時間となりました。

各校では、それぞれ特色ある教育や地域に根差した取り組みが行われています。進学指導、専門教育、地域連携、特別支援教育など、それぞれの学校が役割と強みを持ちながら、子どもたちの未来を支えておられる姿に、改めて敬意を抱きました。

一方で、現場からは非常に切実な課題も聞かれました。それは、「少子化」と「高校授業料無償化」の影響などにより、県立高校がかつて経験したことのない厳しい局面を迎えているという現実です。

現在、本県では多くの県立高校で定員割れが生じています。この傾向は田川地域だけではなく、全国的にも広がっています。

しかし、私はこの問題を単なる「生徒数の減少」として捉えるべきではないと考えています。

いま問われているのは、「これからの県立高校は、地域の中でどのような役割を果たすのか」という本質的な課題です。

これまでのように、「進学実績」だけで学校を選ぶ時代から、地域との関わりや将来の働き方、生き方まで含めて学校の価値が問われる時代へと変わりつつあります。

そこで、私は令和8年6月県議会定例会が開会されますので、「教育政策・県立高校の在り方」について議論を深めようと考えています。

まず、県立高校の定員割れについて、県教育委員会が現状をどのように分析しているのかを質します。

そして私は、これからの地方の県立高校には、「地域人材育成」という新たな役割が必要であると認識の中で見解を問おうと思います。

例えば、

- ・地域課題の解決を学ぶ教育
- ・自治体職員や消防・警察など公務員人材の育成
- ・地域医療や福祉を支える人材育成
- ・地元企業との連携教育

など、「地域で学び、地域で働き、地域を支える」教育モデルを構築することが重要ではないかと考えています。

また、地方においては「通学環境」そのものが進路選択を左右しています。本当は地元高校に通いたい。しかし、交通手段がない、通学時間が長い、保護者の送迎負担が大きい・・・そうした理由から進学先を変えざるを得ない現実があります。

だからこそ私は、スクールバスや公共交通との連携、通学支援制度の充実などを、「交通政策」ではなく、「教育政策の一部」として考えるべきだと提言していきます。

さらに、県立高校の魅力発信についても、もっと早い段階から取り組む必要があります。

進路選択は、中学3年生になって突然始まるものではありません。中学1年生や2年生の段階から、体験授業や学校交流、探究学習などを通じて、「高校を知る機会」を増やしていくことが重要です。

特に田川地域には、保健・医療・福祉分野で高い実績を持つ福岡県立大学があります。

県立高校と福岡県立大学との連携を強化し、高校から大学、そして地域就職へとつながる「人材循環モデル」を構築することは、田川地域にとって極めて重要な戦略であると考えています。

また、私は「教育」だけではこの問題は解決できないことも強く訴えるつもりです。教育、交通、地域振興、私学政策・・・これらを個別に議論する時代ではなく、県全体として横断的に取り組む「政策パッケージ」が必要な段階に入っています。そして私は、田川地域こそ、そのモデル地域になり得ると考えています。

課題が先行している地域だからこそ、新しい挑戦もできる。

地域と学校、行政、大学、企業が連携し、「選ばれる県立高校モデル」をつくることができれば、その成果は福岡県全体へ展開できるはずですよ。

教育は、地域の未来そのものです。学校がなくなるということは、単に建物がなくなることではありません。その地域から若者の未来の選択肢が失われていくということでもあります。

だからこそ私は、現場の声をしっかり受け止めながら、「検討」ではなく「実行」の視点で、この問題に取り組んでまいります。引き続き、地域の皆様の声を県政へ届け、田川地域の教育環境を守り、発展させるため全力で取り組んでまいります。



令和8年度 添田町戦没者慰霊祭

本日5月30日、令和8年度添田町戦没者慰霊祭が、ご遺族をはじめ関係者の皆様のご参列のもと、厳粛に執り行われました。

先の大戦終結から81年。改めて、戦没者の皆様に謹んで哀悼の誠を捧げます。

戦争を体験された世代の高齢化が進む中、戦没者の慰霊はもとより、悲惨な戦争の記憶を風化させることなく、その教訓と平和の尊さを次の世代へ伝えていくことは、今を生きる私たちの重要な責務であると考えています。

また、戦時中の貴重な資料の収集・保存や、戦争体験者の証言を後世へ継承していく取り組みも、ますます重要になっています。

今日の平和と繁栄は、戦没者の皆様の尊い犠牲の上に築かれたものであることを、私たちは決して忘れてはなりません。

福岡県全体の戦没者数は8万8,676柱とされていますが、令和2年から令和6年までの間に、DNA鑑定などにより身元が判明し、ご遺族のもとへ帰還されたご遺骨は県内で4柱にとどまっていると伺っています。

今なお、ご遺骨の帰還を待ち続けておられるご遺族の皆様のお気持ちを思うと、胸が痛みます。

私たちは、その切実な思いに寄り添いながら、遺骨収集や身元確認、そして慰霊に関する取り組みを今後も着実に進めていかなければなりません。

戦没者の御霊の安らかならんことを心よりお祈り申し上げますとともに、ご遺族の皆様のご平安、ご参列の皆様方のご健勝をお祈り申し上げます。

私も県議会議員として、戦争の記憶と平和の尊さを次世代へつなぐため、微力ながら取り組んでまいります。



上 添 田 財 団 区 須 佐 神 社 神 幸 祭

5月8日～10日、お天気に恵まれ、上添田財団区・須佐神社の神幸祭が無事に執り行われました。

8日には提灯山が、9日は添田西から添田中へと、「お下り巡行」で、お神輿と共に町内を練り歩きました。沿道4カ所の休憩所では、地元の皆様からビールやお茶、おつまみなどの温かい接待をいただき、心から感謝申し上げます。地域の絆を強く感じる一日となりました。

5月10日は、添田中から添田東へと向かう「お上り巡行」が執り行われました。帰省した子どもたちも加わり、一緒に御神輿を担ぎました。お下り同様に沿道3カ所での接待は、疲れが吹き飛ばすように皆さん笑顔となっていました。

世の中には様々な地域行事がありますが、行政に頼らず、私たち氏子の手で守り続けてきたこの神幸祭は、格別の意味を持つ大切な行事だと改めて実感しています。

私自身、この地元の祭りだけは何かあっても外せません。その背中を見て育った子どもたちも、生まれた時から参加し続け、大学や社会人になって田舎から離れた時でも、この日のために必ず帰省して神輿を担いでくれます。親として、これほど心強いことはありません。

少子化の影響もあり、僕らの子どもの頃に比べれば規模はこじんまりとしたかもしれませんが、形を変えながらも「絶やさず、次へと繋いでいくこと」こそが、何よりも尊いのだと感じます。

この小さな、しかし熱い伝統を、これからも地域一丸となって守り続けていきたいなと思います。決して国や県の無形文化財といった「型」があるわけではありません。しかし、こうして地域が一体となり、世代を超えて一つの神輿を繋いでいくことこそが、私たちが守るべき大切な「伝統」なのだ改めて実感しています。



ハート・グローバル アウトリーチ 5th 筑豊スペシャル IN 2026

添田町オークホールで開催決定(6月19日～21日)

5月7日、添田町役場で寺西町長を表敬訪問されました。一緒に同行しましたが、日本中の子どもたちに挑戦の機会を届けるための活動をされています。

HEART Globalは、米国に本部を置く非営利の表現教育団体です。音楽を通して、世界中で繋がりを築き、次世代を育てていくことをミッションに掲げています。学校や地域に音楽出張授業をおこなう「ミュージック・アウトリーチ」や、オンラインによる表現教育プログラム「Global E-workshop」など、さまざまなプログラムを実施します。

アウトリーチとは「出張授業」の意味。90年代初頭、米国でHEART Global創設者たちが作りあげてきたプログラムで、キャストと呼ばれる若者たちが、子どもたちと一緒に歌やダンス、演技のワークショップを通じて、ショーを作り上げます。歌やダンスの技術向上でなく、勇気を出して挑戦することや、協力することを大切にしています。



【寺西町長との意見交換】

退任前の添田町の寺西明男町長と意見交換をさせていただきました。

町長選挙への不出馬を表明され、改めて「一つの時代の節目」を感じています。就任当初から様々な困難や大きな課題に直面されながらも、4期16年にわたり町政の舵取りを担われたご苦労は計り知れません。

50年以上に及ぶ行政経験と地域への深い知見は、添田町にとって今後も大きな財産です。行政の継続性や人づくりの大切さなど、多くのことを学ばせて頂きました。



略歴

- 昭和53年 添田町立添田中学校卒業
- 昭和56年 福岡県立田川高等学校卒業
- 昭和60年 日本大学商学部会計学科卒業
- 昭和60年 麻生セメント株式会社入社
- 平成2年 株式会社麻生情報システム 取締役
- 平成12年 株式会社麻生情報システム 取締役
- 平成13年 株式会社麻生情報システム 代表取締役
- 平成23年 福岡県議選(田川郡区) 初当選
- 平成27年 福岡県議選(田川郡区) 2期目当選
- 平成31年 福岡県議選(田川郡区) 3期目当選
- 令和5年 福岡県議選(田川郡区) 4期目当選

福岡県議選での主な所属

- 自民党福岡県議員
- 商工労働常任委員会 委員
- 国際化・多文化共生社会調査特別委員会 副委員長
- 福岡県消費生活審議会 委員
- 福岡県文化議員連盟 副会長
- 福岡県タイ友好議員連盟
- 福岡県森林・林業・林産業活性化促進連盟
- 福岡県日韓友好議員連盟 副会長
- 福岡県日米友好議員連盟
- 福岡県日中友好議員連盟
- 福岡県国際交流推進議員連盟
- 福岡県ベトナム友好議員連盟
- 福岡県日台友好議員連盟
- 福岡県防衛議員連盟
- 福岡県労働議員連盟
- 適地適域活性化対策福岡県議員連盟
- 産地適域活性化対策福岡県議員連盟
- オイスカ国際活動促進福岡県議員連盟
- 福岡県観光産業振興議員連盟
- 福岡県地域公共交通事業振興議員連盟
- 福岡県スポーツ議員連盟
- 九州・沖縄未来創造会議
- 九州の自立を考える会
- 日本会議福岡支部
- 田川直方バイパス延伸推進期成会 顧問
- 田川広域観光協会 理事
- 下関北九州道路整備促進福岡県議員連盟
- 福岡県日田彦山線沿線地域振興推進協議会 委員

こうざき事務所

〒824-0602 田川郡添田町大字添田1417

TEL: 0947-82-5559 FAX: 0947-82-5533

こうざき 検索